



BroadBand Tower, Inc.

株式会社ブロードバンドタワー

2012年6月期 決算説明会資料

<http://www.bbtower.co.jp/>

通期トピックス

通期（11年7月～12年6月）トピックス

◆新経営体制への移行

本年4月に新代表取締役会長 兼 社長CEOとして、藤原洋が就任。

豊富な経験と広範な人脈を活用し、当社が課題としているソーシャルメディア系顧客の獲得、国内外へ視野を広げた新規サービスの開拓を行い、データセンターサービスを中心としたコンピュータプラットフォーム事業の強化を行う。

◆BBTクラウドサービスの拡大

BBTクラウドサービス「c9（シーナイン）」ブランドの拡大を目的として、クラウドEXPOへ出展。当社製品・サービスに関心を頂くとともに、新規顧客の獲得及び今後のサービス拡大に向けた活動を実施。



決算(連結)業績

(単位:百万円) 11年6月期 12年6月期 増減額 増減率 トピックス

	11年6月期	12年6月期	増減額	増減率	トピックス
売上高	14,465	15,811	1,345	9.3%	【売上高】 BBT：減収（▲ 250 4期連続減収） BBF：増収（+1,598 7期連続増収） 連結：増収（+1,345 10期連続増収） （参考_12年6月期BBF売上内訳） EC：2,469百万円 ⇒ 3,129百万円 TV：3,496百万円 ⇒ 4,431百万円 【利益】 BBT：①売上原価率増加 82.7% ⇒ 84.9% 2.2%増加 ②販管費率増加 11.2% ⇒ 12.1% 0.9%増加 ③西梅田サイト特損：210百万円 BBF：販管費率増加 6.5% ⇒ 8.0% 1.5%増加 海外展開および新サービスの 展開における営業費用の発生
売上原価	12,327	13,777	1,449	11.8%	
売上総利益	2,137	2,033	▲ 104	▲4.9%	
営業利益	790	427	▲ 363	▲45.9%	
経常利益	779	410	▲ 369	▲47.4%	
当期純利益	314	11	▲ 303	▲96.4%	

決算(個別)業績

(単位:百万円) 11年6月期 12年6月期 増減額 増減率 トピックス

	11年6月期	12年6月期	増減額	増減率	トピックス
売上高	8,519	8,268	▲ 250	▲ 2.9%	【売上高】 減収 (▲250 4期連続減収) コロケーションサービスにおいて、一部顧客の解約が発生したことに加え、2011年6月期はSJMDの拡張工事に伴う売上2.8億円が発生。 【利益】 ①売上原価率増加 82.7% ⇒ 85.0% 2.3%増加 ②販管費率増加 11.2% ⇒ 12.1% 0.9%増加 新事業所開設に伴う費用、クラウドEXPO出展費用、新卒採用等に伴う人件費増など ③西梅田サイト特損：210百万円 東日本大震災後のDR需要により稼働率は向上したが、今後数年内に多額の設備改修費用が発生する見込み。 今後の収益を予測した結果、将来において設備投資の回収が困難な見込みであり、減損処理を実施。
売上原価	7,048	7,024	▲ 23	▲ 0.3%	
売上総利益	1,471	1,244	▲ 226	▲ 15.4%	
営業利益	513	240	▲ 272	▲ 53.1%	
経常利益	500	224	▲ 275	▲ 55.1%	
当期純利益	218	▲ 51	▲ 270	—	

◆要約貸借対照表（連結）

	11年6月期		12年6月期			11年6月期		12年6月期	
	(単位:百万円)		(11. 06. 30)	(12. 06. 30)		(11. 06. 30)	(12. 06. 30)		
流動資産合計	4,989	4,813	流動負債合計	1,933	2,228				
現金及び預金	3,049	① 2,650	買掛金	1,000	1,366				
売掛金	1,376	1,573	1年内長期借入金	405	405				
商品及び製品	199	306	未払法人税	206	16				
繰延税金資産	163	58	その他	322	441				
その他	203	226	固定負債合計	993	616				
貸倒引当金	△2	△2	長期借入金	405	③ ー				
固定資産合計	3,337	3,461	その他	588	616				
有形固定資産	1,961	1,665	負債合計	2,927	2,845				
無形固定資産	56	162	株主資本合計	5,127	5,100				
投資その他の資産	1,319	② 1,633	その他包括利益累計額	△6	△4				
			新株予約権	9	18				
			少数株主持分	269	314				
			純資産合計	5,399	5,429				
資産合計	8,327	8,275	負債純資産合計	8,327	8,275				

主な増減 ①・②投資有価証券取得（JPIX） ③長期借入金返済

◆要約キャッシュ・フロー（連結）

	2011/6		2012/6	
	(単位:百万円)		2011/6	2012/6
営業活動CF	1,324	570		
投資活動CF	△282	△514		
財務活動CF	△1,271	△454		
現金及び現金同等物の期末残高	3,049	2,650		

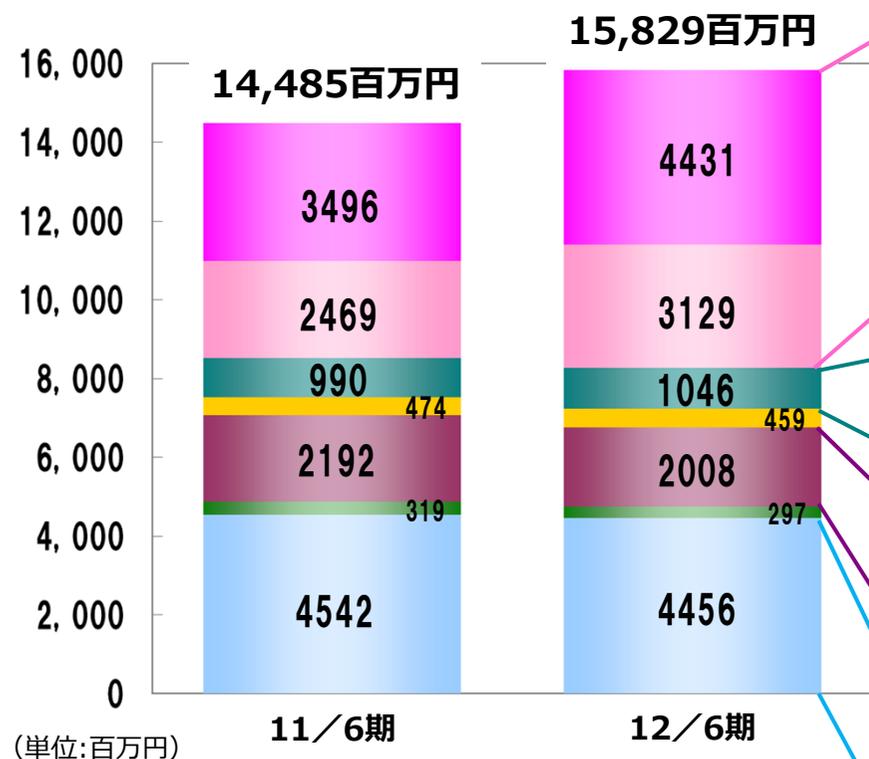
【キャッシュ・フロー内訳】

- 営業活動によるキャッシュ・フロー
 - 税金等調整前当期純利益 214百万円
 - 減価償却費 364百万円
 - 減損損失 210百万円
 - 仕入債務の増加 366百万円
 - 売上債権の増加 △163百万円
 - 棚卸資産の増加 △127百万円
 - 法人税等の支払額 △333百万円
- 投資活動によるキャッシュ・フロー
 - ソフトウェアの取得 △124百万円
 - 投資有価証券の取得 △220百万円
- 財務活動によるキャッシュ・フロー
 - 長期借入金の返済 △405百万円

ts Reserved.

サービス別売上高の増減要因

※サービス売上高は内部振替調整前の数値にて表記



(単位:百万円)

- TVショッピング支援
- ECサイト構築・運用
- プロダクト
- アプリケーションプラットフォーム
- 運用受託
- ネットワーク
- コロケーション

< Eコマースプラットフォーム +1,595百万円 >

EC : 増収 (+660百万円)
一部顧客の解約があったものの、新規ブランドを順調に獲得し増加。(314ブランド ⇒ 360ブランド)

TV : 増収 (+935百万円)
QVCを中心とする国内販売は引き続き拡大。

< プロダクト +56百万円 >

新規顧客の獲得(大学、医療分野等)により増加に転じる。

< 運用受託 ▲184百万円 >

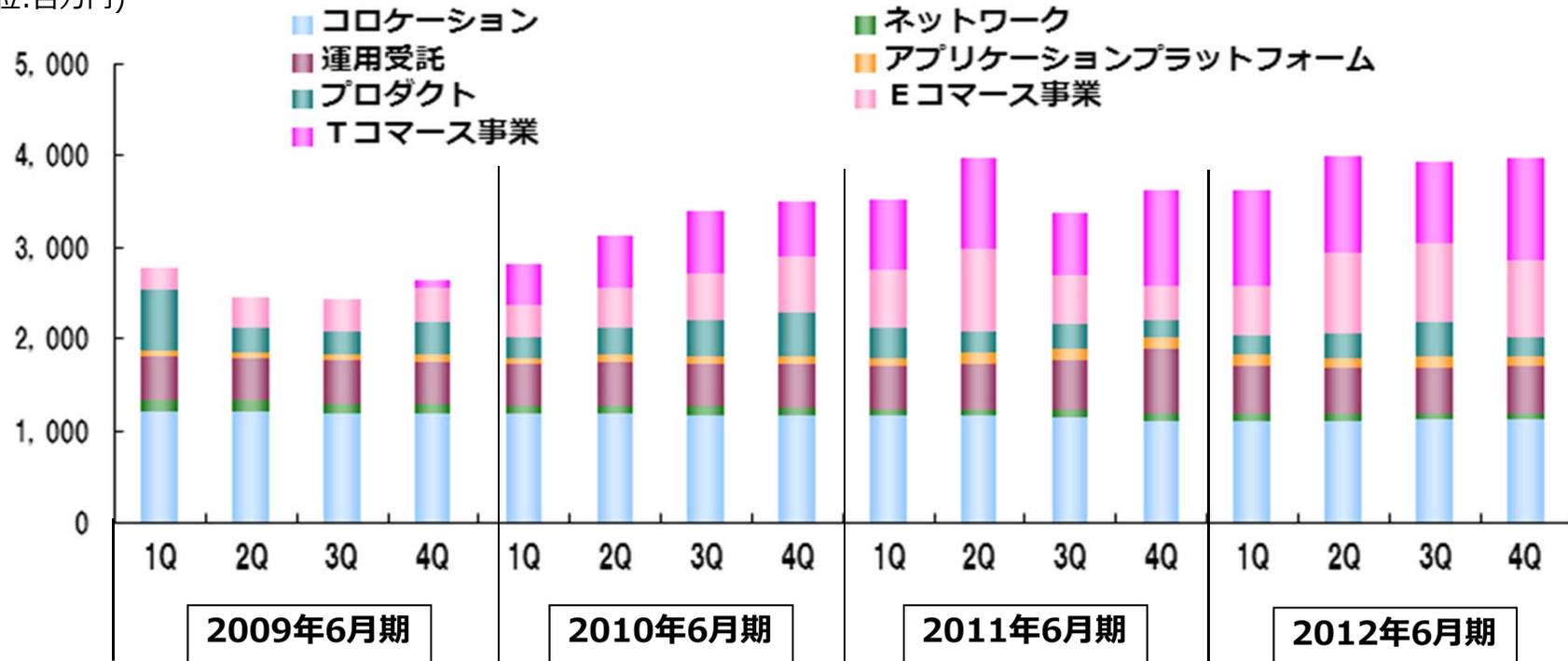
11/6期に行った拡張工事により前期比では減少となるが、安定的な運用へ

< コロケーション ▲86百万円 >

西梅田サイトの稼働率は向上したものの、一部顧客の解約が影響し減少。

サービス別売上高四半期推移

(単位:百万円)



コロケーション  : 西梅田サイトの稼働率向上により減少傾向に歯止め

E C / T C 事業  : 新規ECサイトおよびQVC向けTVショッピング支援が拡大

今後の事業展開

ブロードバンドタワーグループは 第2創業期へ

「ブロードバンドタワーグループ」第2創業期の課題と施策

データセンターを中心とするコンピュータプラットフォーム事業の売上高拡大および利益率の向上

IT融合による新産業の創出
“ビッグデータ”時代のスマート・コンバージェンス”

連結子会社BBFが行うEコマースプラットフォーム事業の規模拡大

**データセンターを中心とするコンピュータ
プラットフォーム事業の売上高拡大および利益率の向上**

①新データセンターの検討

**クラウドの登場とともに、ITインフラとしてのデータセンターの
役割はますます高まる。**

**⇒都内3カ所（大手町、天王洲、渋谷）のデータセンターの稼働率は
フル稼働（92%）に近い状態。**



都内近郊を含め、新データセンターを検討中

データセンターを中心とするコンピュータ
プラットフォーム事業の売上高拡大および利益率の向上

②不採算事業（スペースサービス）の一部撤退

＜スペースサービスの課題＞

- ・スケールメリットが効きやすく、価格勝負になりやすい（差別化しにくい）
- ・設備の老朽化によるリプレースが発生（多額のメンテナンス費用）

利益が出にくい状況

利益が出ていない一部スペースサービスの撤退も視野

データセンターを中心とするコンピュータ
プラットフォーム事業の売上高拡大および利益率の向上

③ビッグデータ市場への攻勢（EMC²との連携）

EMC²




BroadBand Tower, Inc.

⇒ 米EMC社としては、ストレージ「Isilonシリーズ」をビッグデータのためのNAS製品として位置付けており、当社が目指す「ビッグデータ」市場への進出とマッチングする製品である。
引き続きEMC社と連携し、ストレージ販売の拡大へ注力。

(ターゲット分野)

ライフサイエンス業界、製造業界、インターネット業界を中心として、
その他放送局・研究機関等へのアプローチ

IT融合による新産業の創出 “ビッグデータ”時代の“スマート・コンバージェンス”

① ビッグデータビジネス・コンソーシアムの設立

国・公共データの開放、企業の組織を超えたデータの開放と、これらの融合から新たな産業を生みだそうという「ビッグデータビジネス」の機運に応えるべく、このほど業界横断的にオープンで「ビッグデータビジネス・コンソーシアム」を設立。



ブロードバンドタワー主導のもと、産・官・学で新産業を創出

(ご参考)

7月24日に「ビッグデータビジネス・コンソーシアム設立記念フォーラム」を明治記念館で実施。130名超の方にお越しいただき、経済産業省商務情報政策局の三又氏、慶應義塾大学総合政策学部長の國領教授、国立情報学研究所の佐藤教授など、7名の方々に講演して頂く。

I T融合による新産業の創出 “ビッグデータ”時代の“スマート・コンバージェンス”

< ビッグデータをビジネスの主軸にする意義 >

- **ビッグデータの意味**
データベース管理ツールなどで取り扱うことが困難な巨大なデータの集まり
- **ビッグデータが注目される背景**
 - ① インターネット利用の拡大に伴い急増する構造化されていない莫大な量のデータ発生
 - ② サーバ側に設置されるストレージ装置の大容量化と低コスト化
 - ③ コンピューティングパワーの増大によるデータ解析力の向上
- **ビッグデータの蓄積・分析から得られる効果**
 - ① ビジネストrendの特定
 - ② 医療分野における病気予防・特効薬開発
 - ③ 地球環境保護、災害対策、資源開発
 - ④ 犯罪対策
 - ⑤ 様々な学術研究等多岐にわたる

データセンター・ソリューション

- コロケーション
- クラウド
- 一括運用
- Provisioning

EMC² Isilonストレージ

- スケールアウトストレージソリューションを提供
- Isilonはシンプルかつ卓越した性能、信頼性を実現する同一のスケールアウトストレージアーキテクチャ採用
【 EMC² Isilon 2012特別賞】

ビッグデータ分析ツール

- 業界横断型アライアンス・パートナー
- ハイパフォーマンス・コンピューティング

ビッグデータ利活用顧客

- ① ビジネストレンドの特定によるマーケティングツール
⇒製品開発・サービス開発
- ② 医療分野
病気予防、特効薬開発
- ③ 地球環境保護
災害対策
資源開発
- ④ 犯罪対策
- ⑤ 様々な学術研究応用
等多岐にわたる

I T 融合による新産業の創出 “ビッグデータ”時代の“スマート・コンバージェンス”

②スマート・コンバージェンス

～ 医療や住宅など、I Tとは直接関係ない分野にもI Tが融合するという考え方～

医療分野ではI Tを利用した創薬が既に実現しており、住宅でもスマートハウスという考え方が急速に普及。

このような分野でもビッグデータ処理と同様に、ストレージを提供するだけでなく、そこに蓄積されたデータをどのように処理していくかというソリューションが求められる。



**それぞれの専門分野に強い企業と積極的にアライアンスを組み、
独自性の強いソリューションを提供**

連結子会社BBFが行う Eコマースプラットフォーム事業の規模拡大

BBF事業内容

EC SUPPORT (EC支援事業)

従来のファッションECにおけるシステム開発、運用支援

TV SHOPPING (TVショッピング支援事業)

TVショッピング販売支援事業、商品企画・販売手法支援

CROSS BORDER (クロスボーダー事業)

海外販売支援

BBFはファッション業界の商慣習がわかる数少ない通販支援事業者として、

1. インターネット・携帯電話
2. テレビ
3. 海外展開

の3本の柱を有機的に結合し、消費者に高いメリットを与える「ファッションのクロスボーダープラットフォーム」を提供。

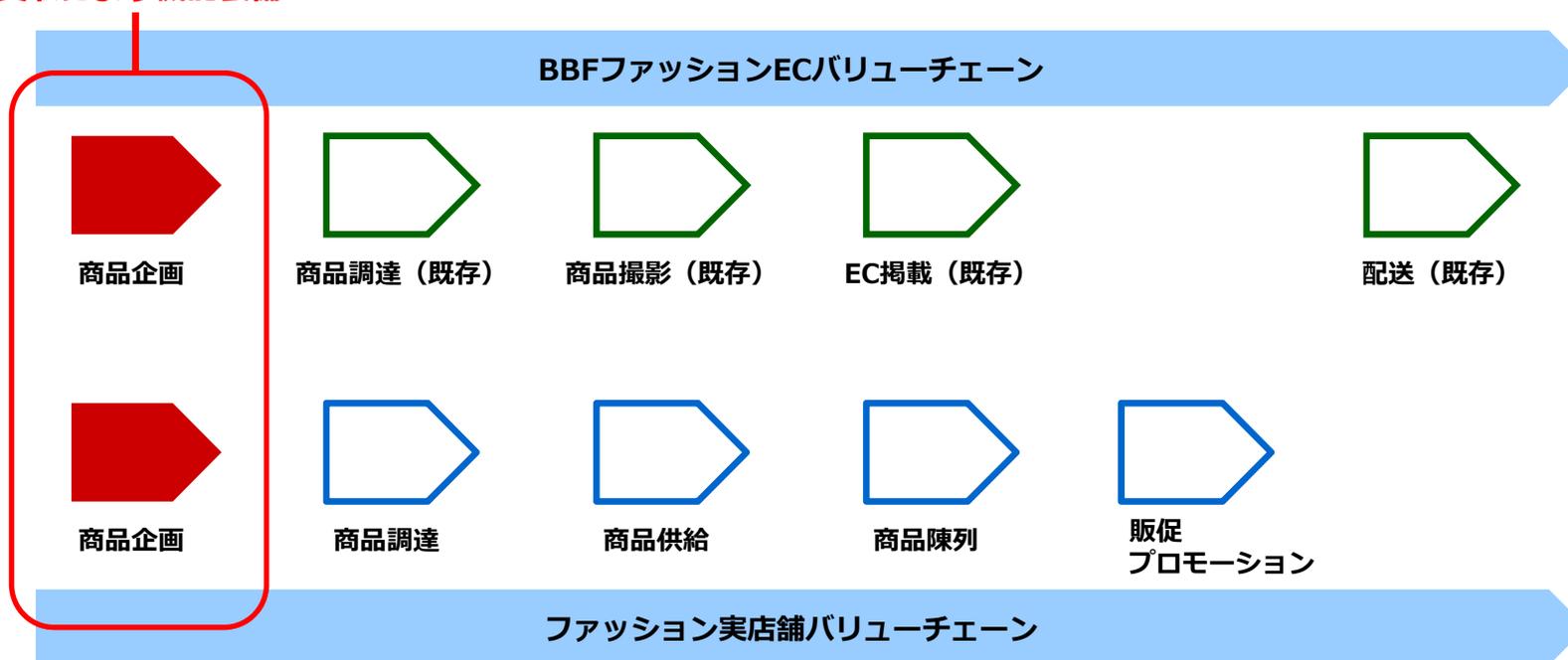
～BBTが58.3% 三井物産が40%出資～

三井物産は一流ファッションブランド関連事業を展開しており、ブランドビジネスのノウハウに強み。BBFが提供するECプラットフォームに三井物産のノウハウを活用することで成長を実現。最近ではTVショッピング支援事業でも協力関係を構築。

連結子会社BBFが行う Eコマースプラットフォーム事業の規模拡大

衣料の販売・企画・デザインを行うブランチアウト社をBBFが完全子会社化

買収により機能装備



ファッション業界のバリューチェーンにおいて
業界内の様々なプレイヤーに対し一貫した機能提供が可能に

連結子会社BBFが行う Eコマースプラットフォーム事業の規模拡大

— 今後の戦略 —

- ①BBFの持つEC事業のノウハウとブランチアウトの持つ企画力を組み合わせることで、ファッションECのバリューチェーンに対して一貫した機能を提供
- ②ブランドのバックエンド（BBF）、ファストファッションのバックエンド（ブランチアウト）、双方で培ったノウハウを活かしてシナジー効果を狙う
- ③BBFの既存国内顧客への中国EC展開サポートを行う

連結子会社BBFが行う Eコマースプラットフォーム事業の規模拡大

(ご参考) ブランチ・アウト社概要

所在地	東京都渋谷区
設立年月日	平成9年
資本金	10百万円
取引先	大手アパレルメーカー
事業内容	紳士・婦人・子供衣料の販売 企画・デザイン・制作全般



ブランチアウト社HP : <http://www.branch-out.jp/>

<直近業績_平成23年7月期>

売上高 : 5,079百万円 営業利益 : 263百万円 経常利益 : 47百万円 当期純利益 : 47百万円

◆平成25年6月期業績予想（連結）

(単位:百万円)	12年6月期	13年6月期	増減額	増減率	(参考) 13年6月期2Q
売上高	15,811	22,000	6,188	39.1%	10,100
営業利益	427	550	122	28.6%	100
経常利益	410	430	19	4.8%	▲20
当期純利益	11	110	98	864.8%	▲50

< 売上高 >

BBFの既存事業（EC・TC）拡大およびブランチアウト社買収により、連結売上高は大幅増収（+39.1%）

< 利益 >

電気代増加や設備更新費用の発生により売上原価増加、新事業所移転により販管費が増加。
BBFでは買収に伴うアドバイザー手数料が第1四半期に発生。のれん代の償却は第2四半期より発生。

◆新役員体制

第2創業期に向けた新たな経営体制



藤原 洋
代表取締役会長兼
社長CEO



西野 大
取締役CTO

新任取締役候補 (2012年9月21日付)

取締役 中川 美恵子)

取締役 中村 高根

取締役 高橋 俊之

取締役 及川 茂

取締役 大和田 廣樹

取締役
(社外) 村井 純